エグゼクティブ・サマリー
ローカル・コントロールと教育的責任に関する計画（LCAP）
2016年6月

I. 前書き：

ローカル・コントロールと教育的責任に関する計画（LCAP -Local Control Accountability Plan ）は、公立学校に対する新しいローカル・コントロール資金配分方式（LCFF -Local Control Funding Formula）の要件として、州により義務付けられている。LCFFは、分類別資金を廃止し、基本、補足、集中という３種類の助成金に資金を振り分けることにより、カリフォルニアの学校区に公平で柔軟的な資金配分システムを提供することが目的である。各学校区は、生徒１人当たりの基本助成金を割り当てられる。基本助成金は、生徒の学年を通しての一日平均学校出席率（ADA）に基づいて配分される。

2016－2017年度、TUSDは、約$181,000,000のLCFF基本資金を受け取ることが期待されている。LCFF補足助成金に関しては、2016－2017年度は$11,958,000と見積もられている。補足助成金により、前年度に比べての資金増加が表される。2015－2016年度の$9,851,000から$11,958,000に増加しており、これは、標的グループ生徒のための、$2,107,000近くの増加である。2016－2017年度のTUSDのLCFF資金の合計額は、$192,958,000 である。

追加的な補足助成金は、学校区内の、社会経済的に恵まれない生徒、英語学習生（EL）、および里子の生徒の非重複人数に基づく。このため、貧困者が多く、リソースが不足している地域を含む学校区は、受け取る補足助成金が多くなる。補足助成金は、基本資金の20%まで追加的に受け取ることができる。TUSDは補足助成金を受け取る。

トーランス統一学校区（TUSD）は、トランジショナル・キンダーガーテンから12年生まで、24,000人近くの生徒を教育している。当学校区の生徒の中では、社会経済的に恵まれない生徒が29%、EL生が16%、里子の生徒が99人となっている。非重複生徒は全体の約37%である。非重複生徒が55%を超えないため、TUSDは集中助成金は受けない。集中助成金は、EL生、里子の生徒、社会経済的に恵まれない生徒の非重複生徒が55%以上である学校区に対して、基本助成金の50%を追加的に提供するものである。

II. LCAP

州は、補足助成金および集中助成金を通して受け取った資金は、EL生、里子の生徒、または低収入家庭生徒と識別された生徒のためのサービスを増加、向上するために使われなければならないとしている。学校区は、どのようなサービスをどのように実施するかをローカル・コントロールにより決定することができる。

LCFFに関係しているのが、教育的責任の基準となるLCAPである。LCAPの中で、学校区は、州の優先領域に目標を合わせ、向上の目標を定め、学校区の目標に合わせて資金配分を行わなければならない。

州の議会は、LCAPで取り上げるべき８つの優先領域を定めている：

- 学習環境
  - 基本的なサービス
  - カリフォルニア州コモンコア標準（CCCSS）の実施
  - コースへのアクセス
- 生徒の成果：
  - 学力達成
  - その他の生徒成果
- 教育参加：
  - 保護者の教育参加
  - 生徒の学校参加
  - 学校風紀

LCAPは以下に説明するとおり、３つのセクションに分かれている。

セクション１

州議会は、LCAPの作成過程に利害関係者が参加することを義務付けている。当学校区の利害関係者の参加については、LCAPのセクション１に詳細が記述されている。それぞれの州優先領域についてのニーズ・プロファイルの開発は、利害関係者の代表者の参加、および、生徒の学力に関する学校区データの検討を通してすすめられた。

LCAPで述べられているように、利害関係者の参加によっていくつかのテーマが発生し、それらのテーマは、各州優先領域についての具体的ニーズと目標の開発において有用となった。

- 教師と管理者の保持と能力開発。
- 教師と管理者のための、効果的で維持可能な専門能力開発モデル。
- 全ての学年の生徒の高レベルの学力達成。
- 包括的な生徒介入指導およびサポート。
- 保護者との協力とコミュニケーションの強化。

セクション２

LCAPのセクション２では、かぎとなる多くの項目が１つのセクションにまとめられている。LCAPのセクション２ではニーズのプロフィールが詳しく記述されている。セクション２は、全生徒、特に、ニーズの高い生徒をサポートするための、学校区の「展望」と「使命」である。このセクションでは、年次目標および、目標達成に向けての期待される実際の進歩が記述されている。LCAPが適用される期間に予想される詳細、および各年次更新年度ごとに、特定された測定値に基づいた、前年度の進歩状況報告が含まれなければならない。さらに、セクション２は、学校区が、セクション２で各優先領域について設定した展望をどのように達成していくかについて、詳細を記載するものとする。

さらに、セクション２では、目標に達成するために実施する年次措置を特定し、各措置を実施するための支出額、そして、LEAの予算の中のどこからそれが出されるかを特定している。措置は、特定の目標を達成するために実施されるひとまとまりのサービスとして記述されることもある。措置および支出は、特定のサブグループに関するある目標の中での詳細を反映するとともに、TUSDがすべての生徒のために何をするのかを表していなければならない。

セクション２では、年次措置によって「サービスを受ける生徒」を特定し、LEAは、すべての生徒に提供されるサービスを超えて、これらの措置をサポートするために、教育規定のセクション42238.01に定義された、低所得家庭生徒、英語学習生、そして/または里子児童、そして、英語熟達認定を受けた生徒に対して実施される、どのようなサービスをも含めることができる。措置には、低所得家庭生徒、英語学習生、里子児童、そして/または英語熟達認定を受けた生徒に関してセクション２に記述された標的目標に達するために実行される措置を含まなければならないが、これに限るものではない。このセクションでは、補足的助成金の支出がすべて提供されなければならない。

最後に、セクション２では、TUSDの前年度のLCAP実施を振り返った結果を「年次更新」として提供している。年次更新は、学校区の目標に向けての進歩、2015-2016年度に実施された措置/サービスおよび支出を振り返った結果報告である。年次更新のテンプレートでは、LEAは、LACOEに最終的承認を受けた2015-2016年度LCAPからの情報を記載し、その年度の実際の成果、措置/サービスおよび支出を記述する。さらに、LEAは、過去の進歩状況の考察に基づいて、各目標に変更が計画されていれば、それを記述するものとする。

セクション３
セクション3Aおよび3Bでは、セクション１と２に記載された詳細の、簡単な叙述的説明または要約を提供している。

LCAPは３年計画で、生徒の成果および利害関係者の意見に基づいて、毎年更新される。今後、学校区がサービスの実施、評価、さらなる発展を進めていくうえで、LCAPの中で改訂が最も多くなるのは、セクション2であると思われる。

III. 次のステップ

TUSD は LCAP を利害関係者に公表し、検討、意見を求めた。2016 年 6 月 20 日の教育審議会会議での公聴会に向けて、LCAP 草稿に適切な変更が加えられた。教育審議会は 2016 年 6 月 27 日に LCAP を承認し、LCAP は 2016 年 6 月 28 日にロサンゼルス郡教育局に提出された。